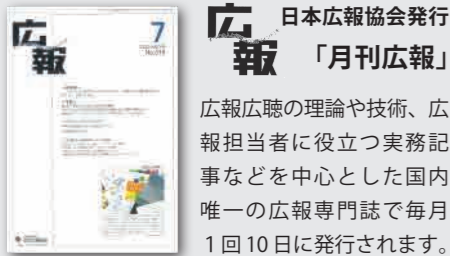


令和3年全国広報コンクール 広報紙町村の部入選
2020年12月号「特集 後世に継ぐ開拓魂」



広報コンクールを主催する日本広報協会が発行している月刊広報から審査講評をご紹介します。



麗澤大学 川上 和久 教授

特集では錦江町と与論町の歴史的な関わりを振り返っている。歴史的経緯も当事者へのインタビューでしっかり描かれていた。特に田代中と与論町の生徒のメッセージも掲載され互いの素朴な思いがよく出ていた。

日本漢字能力検定協会 佐竹 秀雄 室長

なかなかの力作である。戦後75年、姉妹盟約半世紀で開拓団の歴史を特集するのは意義深い。史実と証言をもとに丁寧に書き込まれている。一方で現在の交流にも触れ、過去と現在を追った点も評価できる。

デザイナー 平本 久美子 さん

単調なレイアウトにならないよう背景の処理など工夫されていた。特に手紙のやりとりのページは目にとまり、かつ印象に残るデザインであった。その他のページも色数を抑えつつ丁寧にデザインされていた。

尾迫 佳織さん・春彩ちゃん(母)・川崎 岳くん(父)

イベントや子育て、健診情報などお知らせを中心に読みます。写真も大きくてインタビューに答える方の表情も豊か。子どもたちの写真掲載も多いので親子で見えます。

2021年7月号
「木を使う森を育てる」



福山 博二さん (昇陽)

広報紙は毎月全ページ読んでいます。特集はもちろんお知らせから出来事まで丁寧に取材されているのが分かります。編集後記も楽しみです。若い方たちの活躍にも期待しています。

2021年9月号
「人がつながる新拠点」



舞原 舞さん (鶴園)

「トピックス (まちの出来事)」がお気に入りです。幼稚園で受け持った子どもたちが成長し活躍している姿を見ると嬉しくなります。今年の11月号は卒園児が表紙を飾っています！

2020年11月号
「本のある暮らし」



宮下 ひとみさん (上之宇都)

広報きんこうは毎月楽しみにしています。お知らせも記事も統一感があり要点がまとめであるので読みやすい。訪問する調査員さんの顔写真も掲載されていたり丁寧だと感じます。

2020年7月号
「まちが誇る逸品」



原澤 陽好さん (原沢)

小中学校の同級生が甲子園出場を決めたときの特集号が一番印象に残ってます。高校を選らんだ理由や野球への情熱など普段あまり見せない一面を知りました。

2021年8月号
「夢舞台での挑戦」



「だからこそ」発信できるものではないでしょうか。伝わった先の行動こそが、特集記事に求められる価値。紙面には読者である町民に多く出演してもらいます。一方通行の情報発信ではなく町民との

共同作業で完成するものであり、まちに暮らす人ができるだけ多く紙面を飾ることが理想。まちづくりは行政や一部の人が行うものではありません。特集記事内であえて「お願いします」という表現を使わないのは町を動かすのはそこに暮らす「人」であり、主役は町民一人ひとりだからです。住民と行政のパイプ役に例えられる広報紙。特集は作っただけでは価値がありません。取材を通してメッセージが伝わる。行動に結びついてこそ価値となり、町を動かす大きな原動力になることが広報紙の使命です。

2021年9月号
「人がつながる新拠点」
町の抱える空き家課題と起業したい若者が出会って誕生したゲストハウス。オープンするまでの道のりから「まちづくり」のヒントが見えてきました。



2021年8月号
「夢舞台での挑戦」

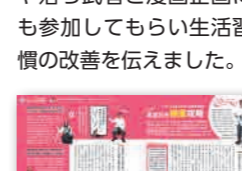
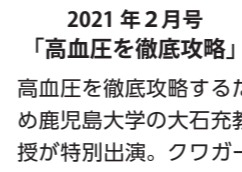
高校球児たちの夢舞台、甲子園に出場が決まった麥生田駿さん取材。コロナ禍を乗り越え少年時代からの夢をつかんだ軌跡を広報で追いました。

2021年7月号
「木を使う。森を育てる。」
ウッドショックで日本の木材が注目され林業機械による伐採が進む一方、伐採後の植林が問題となっています。林業の常識だった植林を訴えます。



2021年6月号
「命の重みと責任」

毎年3万頭以上の犬や猫が殺処分される現状に向き合ってほしいと企画。動物愛護センターや動物病院への取材で命の重みと責任を投げかけました。



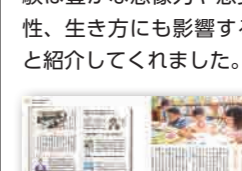
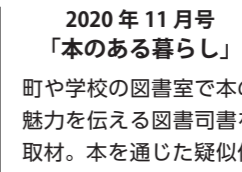
2021年1月号
「音楽の力」

音楽を続けたいと願う子どもたちの受け皿を作ろうと結成したジョイサウンド。小学生から70歳までのメンバーが音楽の魅力を発信しています。



2020年11月号
「本のある暮らし」

町や学校の図書室で本の魅力を伝える図書司書を取材。本を通じた疑似体験は豊かな想像力や感受性、生き方にも影響すると紹介してくれました。



2020年8月号
「命を守るための避難」

特定非常災害に指定された令和2年7月豪雨災害の取材から、避難の意識を高めてほしいと企画。前例は通用しないと救助隊員も強く訴えました。



2020年8月号
「命を守るための避難」

特定非常災害に指定された令和2年7月豪雨災害の取材から、避難の意識を高めてほしいと企画。前例は通用しないと救助隊員も強く訴えました。

まちの「いま」を掘り下げることで見えてくるもの

特集記事の必要性

毎号巻頭で組まれる特集記事。毎回テーマを設定し、町内外での取材を通じて掘り下げていきます。行政からのお知らせではなく、情報の共有による「まちづくり」に向けた大切な一歩だと考え毎号作成しています。

「だからこそ」の存在へ
広報きんこうでは毎号ひとつのテーマを決めて特集ページを組んでいます。特集はお知らせ記事を大きくしたのではなくタイムリーなテーマを取材により掘り下げることで気づいてもらうことを大切にしています。行政側から一方向のお願いやお知らせではなく、実際に体験した人だから話せるリアルな声こそ説得力があり私たちの行動に影響を与えると信じています。秒単位で更新されるネットはもちろん毎日発行される新聞にもスピードではかきません。広報紙だからこそできることはなにか。発行回数を増やすことはできませんがテーマを掘り下げて深く伝えることは可能です。テレビや新聞で紹介されない小さな活動の裏側にも大きな物語はあるのではと、昨年末に取材させてもらった与論開拓団の歴史もそのひとつ。きっかけは中学生が始めた手紙交換でしたが、取材を進めるうちに姉妹町盟約締結に至った経緯

毎月の特集記事は必要なのか



ほとんどの雑誌や月刊誌が特集を掲載するのは毎月手に取って読んでほしいから。広報紙も同じで少しでも多くの方に手に取ってもらえるよう特集を組んでいます。

広報きんこう読者の声

広報特集として普段あまり聞けない読者の声を取材しました。よく読んでいるコーナーや最近の特集記事に興味のあったもの、提案や応援までその声はさまざまです。最後は印象に残っている1冊を厳選してもらいました。